

# 行政視察内容報告書



平成30年 1月 25日

土佐清水市議会議長  
仲田 強 様

会派名 清友会

(提出者) 氏名 森 一美



下記のとおり報告します。

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	仲田 強      浅尾 公厚      細川 博史 森 一美      計 4 人
期 日	平成 30年 1月 10日 から 30年 1月 12日 まで
【概 要】(年月日・場所・内容)	
○ 視察先: 和歌山県日高郡みなべ町議会 稲むらの火の館	
○ 目 的: 和歌山県内自治体の防災対策及び過去の経験	
○ 内 容: 別紙報告書のとおり	
1 和歌山県みなべ町議会	
1月11日 午前10:00~11:30	
みなべ町におけるハード・ソフト事業の進捗状況	
ハード事業	
現在の状況	
経費	
設備見学	
2 各地の防災設備の見学	
1月11日 午後1:00 ~午後4:00	
立地場所と建物	
設備の規模・構造	
午後4:00~午後4:30	
稲むらの火の館に於ける施設見学	

【所 感】

1 みなべ町議会における説明会

みなべ町に於けるこれまでの取組みと防災意識について説明を受けた。

講師はみなべ町総務課課長、防災担当係長様で、パワーポイントを活用して詳細にわたり説明を受けた。

みなべ町は本市と同じく太平洋に面し、津波の高さは14mの予想という。

町中心部は浸水予想地域にあり、3階建ての避難タワーが建設されていた。(写真参照)  
教育関連施設の多くは町中心部にあり、この避難場所を高台に作る計画中という。

研修を受けながら、本市同様、取り組んでいる感じがした。

自主防災組織は100%出来上がっており、組織の長は地区長とのことである。

防災士の役割については、具体的に進めている。

この研修には地元の新聞も関心を持ち、翌日には掲載してくれた。

2 各地の防災施設現地視察

みなべ町議員の丸山氏が近隣の防災施設を案内してくれた。

① 美浜町

沿岸から少し離れたところに人工の高台避難所を建設。

② 日高川町

ア 川沿いに走る国道周辺の崩落防止土砂止めを数キロ設置

イ 高速道路わきに防災拠点建設中

(写真参照)

3 過去の教訓を勉強

広川町にある稲むらの火の館を訪問

言い伝えから津波が来ることを予想して住民を被害から救った庄屋さんの話を聞く。

当時の資料や3D映像を体験

4 今回の研修から得たもの

① 防災施設は可能な限り設置すべき

② まず逃げる 自助第一と考えるべき、共助できればなお良し

③ 過小評価はするな

等、出来る限り市民で共有し、被害を出さない努力をしていきたい。

研修に協力して頂いた皆さんに感謝申し上げます。

みなべ町役場



みなべ町避難タワー



日高川町防災センター  
(建設中)



美浜町避難所



日高川町崩落防止施設



稲むらの火の館見学

